

16	碧南	新川小学校	氏名 <small>かとうちかし</small> 加藤周司
分科会番号	3	分科会名	社会科教育 (小学校)

研究テーマ

社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業
 -3年社会科「工場働く人 ～白しょうゆ・白だし探検隊! 新川で初めて作られた白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを見つけよう～」の実践より-

1 はじめに

碧南市社会科部では「社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」のテーマのもとで授業研究に取り組んでいる。昨年度の研究を通して、よりよい社会づくりへの参画をめざす意識を高めるためには、「子どもが社会的な事象を自分事としてとらえ、単元を通して課題意識をもち続けること」が課題として挙げられた。

2 研究の概要

(1) 主題設定の理由

「学校のまわりには公共施設が思っていたよりも多くてびっくりしました。」「学校があるところは家に囲まれている、家のあるところはお店に囲まれているとは思わなかった。」前単元「学校のまわり」での子どもの意見である。普段、何気なく生活している学校周辺の様子を自分事としてとらえ、追究活動を通して考えを深めていく姿が見られた。そこで、初めて社会科を学ぶ子どもたちの社会参画の意識をより高めたいと考えた。本単元は、学区発祥であり、碧南市の特産品である白しょうゆ・白だしを教材として取りあげる。普段の料理に白しょうゆ・白だしが使われているかを尋ねると、「分からない」と答える子どもが69%であった。学区発祥でありながら、普段、あまり意識されていない特産品が教材であるため、子どもたちが自分事として社会的な事象に向き合うには最適な教材だと考える。

子どもたちが社会的な事象を自分事としてとらえることができるようにするため、市政なんでも百科「碧南の農業」(碧南市出前講座)や七福醸造株式会社の見学などの活動を通して、白しょうゆ・白だしが新川発祥で、身近な料理に使われていておいしいという事実に出合わせる。課題意識をもち続けることができるようにするため、新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを追究するなかで、白しょうゆ博士とプロの料理人出前講座、調味料エバンジェリスト「下村さん」のインタビューなどの教材に出合わせる。社会的な見方や考え方を働かせられるように、出合った教材を比較したり、関連づけたりする。よりよい社会づくりへの参画をめざす意識を高めるために、仲間と協働的に学んだり、3年1組では75%の家庭で使われている白しょうゆ・白だしが、全国では生産量が0.7%である事実に出会わせたりする。

本単元を通して、社会的な事象を自分事として向き合い、粘り強く課題を解決し、協働的に学ぶなかで、よりよい社会づくりへの参画をめざす意識を高める子どもの姿を願っている。

(2) 研究主題のとらえ

本研究では、研究主題「社会的な見方や考え方を働かせ、仲間とともによりよい社会づくりへの参画をめざす社会科の授業」を次のようにとらえた。

●社会的な見方や考え方を働かせ

「社会的な見方や考え方を働かせ」とは、社会的な事象を、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目してとらえ、比較・分類したり、統合したり、地域の人々や市民生活と関連づけたりして、知りたい・調べたいと強く思うことととらえる。本研究では、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを自分事としてとらえ、粘り強く課題を解決する姿ととらえる。

●仲間とともに

「仲間」とは、共に学び合う学級の子どものみだけでなく、学びを通してかかわりあう人たちもすべて含めたものととらえる。よりよい社会づくりへの参画のためには、仲間とかかわりあうことが礎となるべきだと考える。本研究では、協働的な学習を進めるなかで、考えを深める姿ととらえる。

●よりよい社会づくりへの参画をめざす

「よりよい社会」とは、そこにかかわる人にとって幸せを感じられる社会である。追究により社会構造を認識し、自分なりの問題解決が見えた先にあるのが「よりよい社会づくり」ととらえる。「参画をめざす」とは、「よりよい社会」へ「参画する」という行動化だけをめざすのではなく、行動化への意識や意欲を高めたり、きっかけを作ったりする「参画していこうとする」姿や、社会とかかわりに「思いをはせる」姿も参画ととらえる。本研究では、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいと動き出そうとする姿ととらえる。

(3) めざす子ども像

- ・新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを学びたいと強く思い、「作り方のひみつ」「作る人のひみつ」「味わい方のひみつ」で学んだ事実を比較、関連づけたりしながら、粘り強く課題を解決する子ども
- ・新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを粘り強く追究することを通して、仲間の意見や思いにふれて考えを深めるなかで社会参画の意識を高め、その意識をもとに、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいと動き出そうとする子ども

(4) 研究の仮説

仮説1 単元との出会いを工夫して単元を貫く課題を設定(①)し、課題意識をもち続けることができる単元計画(②)を仕組みれば、子どもたちは、新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを学びたいと強く思い、「作り方のひみつ」「作る人のひみつ」「味わい方のひみつ」で学んだ事実を比較、関連づけたりしながら、粘り強く課題を解決できるだろう。

仮説2 資料や発問を工夫し、追究活動を通して得た考えを話し合う場を設定 (③) し、社会参画の意識を具現化するための工夫(④)を考えれば、子どもたちは、仲間の意見や思いにふれて考えを深めるなかで社会参画の意識を高め、その意識をもとに、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいと動き出そうとするだろう。

(5) 研究のてだて

仮説1に対するてだて

① 単元との出合いの工夫と単元を貫く課題の設定

新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを学びたいと強く思うことができるようにするため、「碧南の有名なもの・こと」「碧南市の土地利用」「市政なんでも百科」(碧南市出前授業)で、身近な碧南市の農産物を学び、その農産物に白しょうゆで味付けした「へきなん焼きそば」が100年フードに認定されている事実に出合わせる。さらに、「七福醸造株式会社の見学」を設定し、白しょうゆ・白だしが新川発祥で、身近な料理に使われていておいしいということに気づくことができるようにし、単元を貫く課題を設定する。

② 課題意識をもち続けることができる単元計画

七福醸造株式会社の見学で見つけた「作り方のひみつ」「作る人のひみつ」「味わい方のひみつ」を比較、関連づけたりしながら、粘り強く課題を解決できるようにするため、子どもの思考に合わせて、「白しょうゆ博士とプロの料理人出前講座」「調味料エンジェリスト【下村さん】のインタビュー」「白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつをまとめる活動」を単元に組み込み、社会的な見方や考え方を働かせるように発問を工夫する。

仮説2に対するてだて

③ 資料や発問を工夫し、追究活動を通して得た考えを話し合う場の設定

仲間の意見や思いにふれて考えを深めるなかで社会参画の意識を高めるため、単元を貫く課題を粘り強く追究することを通して得た考えを話し合う場を設定する。「3年1組では75%の家庭で使われている白しょうゆが、全国では生産量が0.7%である事実」を示し、「追究活動で得たおいしさのいちばんのひみつ」と「白しょうゆの全国での生産量」をかかわらせる発問をする。

④ 社会参画の意識を具現化するための工夫

高まった社会参画の意識をもとに、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいと動き出そうとするため、前時の振り返りを生かした課題を提示し、社会参画する対象や方法を考える。

(6) 単元の目標

- ・地域に見られる工場の仕事について、見学・体験したり資料を調べたりして、必要な情報を集め、生産に従事する人々の仕事の様子や地域との関連を理解することができる。(知識及び技能)
- ・工場の仕事の様子と地域の人々の生活との関連を考え、適切に表現することができる。(思考力・判断力・表現力等)
- ・地域にみられる工場の仕事について、予想を立てたり、学習を振り返ったりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。(学びに向かう力、人間性等)

資料2 単元計画

学習課題	学習活動(活動) ◎資料 ◎見学・体験 ◆インタビュー	時間	子どもの意識	単元 の ね が め
碧南市はどんな市かを考えよう	◎碧南市の有名なもの・ことを把握。 ◎市制70周年観光パンフレット【いろいろ】	1	碧南には有名な場所や食べ物がたくさんあって、うわいいな。	①
碧南市の土地の様子を調べよう	◎碧南市の土地利用の様子を把握。 ◎碧南市の航空写真	1	碧南市は地形が平で、川の近くに工場があって、川の近くに田畑があるんだ。	①
碧南市で作られている有名な食べ物を知る	◎碧南市の有名な農産物の把握。 ◎市政なんでも百科「碧南の農業」(碧南市出前講座)	1	へきなん美人やたまねぎが有名なことが分かったよ。あまくておいしいから、また食べたいな。	①
へきなん焼きそばが100年フードになったひみつを考えよう	◎へきなん焼きそばが文化庁食文化振興事業の100年フードに認定されたことを把握。 ◎白しょうゆが碧南の新川発祥であることを把握。 ◎へきなん焼きそばが100年フードに認定された時の認定証。 ◎碧石公園にある白しょうゆの歴史。	1	給食でも買っているへきなん焼きそばが100年フードになっていたなんてすごい。白しょうゆがここで初めて作られたなんて知らなかった。もっと、白しょうゆについて知りたくな。	①
白しょうゆを作っている工場を見学して、ひみつを見つけてよう	◎見学の視点を果敢化するための話し合い。 ◎白しょうゆ・白だしの興味・関心を高める見学。 ◎単元を貫く課題の設定。 ◎七福醸造株式会社の見学。	2	白だしが初めて作られたところだった。白しょうゆの味や匂いを初めて見た。きゅうりを試食したら、すごくおいしかった。おいしさのひみつももっと知りたいな。	①
單元を貫く課題「白しょうゆ・白だしの味わい方のひみつを調べよう」				
おいしく作る作り方のひみつを考えよう	◎見学のまとめ：白しょうゆ・白だしをおいしく作る作り方の把握。 ◎見学で学んだおいしく作る作り方をまとめた資料	1	おいしく作る作り方は、天然の材料を使っていることだと分かったよ。だから、おいしいんだ。	①
おいしく作る人のひみつを考えよう	◎見学のまとめ：白しょうゆ・白だしをおいしく作る人の工夫や思いの把握。 ◎見学で学んだおいしく作る人の工夫や思いのまとめ資料	1	おいしく作る工場は、ありがとうの気持ちをもっていることだと分かったよ。作る方も知りたくな。	①
おいしく味わうひみつを調べよう	◎白しょうゆ・白だしのおいしい味わい方の体験。 ◎白しょうゆ博士とプロの料理人出前講座	2	かわりが300種類やナムル、おいしかった。白しょうゆ、すごい。	①
おいしく味わうひみつを考えよう	◎白しょうゆ博士とプロの料理人出前講座のまとめ：白しょうゆ・白だしのおいしい味わい方の把握。 ◎体験で学んだおいしい味わい方をまとめた資料。 ◆調味料エンジェリスト「下村さん」のインタビュー	1	おいしく味わうひみつは、とんるかにおいしい。味の代わりには使わないことだと分かったよ。家で作りたくな。	①
今まで見つけた「おいしさのひみつ」をまとめよう	◎追究してきた「白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつ」のまとめ。 ◎今まで学習に用いた資料	2	いちばんのひみつは、おいしく作る人だと思ってる。ありがとうの気持ちもこめると、見た目が味もよくなるからです。	①
白しょうゆ・白だしのおいしさの「いちばんのひみつ」を考えよう	◎白しょうゆ・白だしのおいしさの「いちばんのひみつ」の考察と社会参画の意識の高揚。 ◆調味料エンジェリスト「下村さん」のインタビュー ◎3年1組の白しょうゆ・白だしのアンケート結果と白しょうゆの生産量のグラフ	1	白しょうゆや白だしは、すごくおいしくて、ここではなくてはならないものなのに、0.7%しか作られていないなんて、びっくり。おいしさを広めたいな。	①
白しょうゆや白だしのおいしさのひみつを広めよう	◎高まった社会参画の意識を具現化するための方法の検討。 ◎高まった社会参画の意識の具現化	2	白しょうゆを作らない人がたくさんいるから、いこうやって、おいしさを広めたいな。これからは白しょうゆを使っていきたい。	①

3 研究の実践と考察

(1) 指標児童の設定

指標児童Aの現状と願いを資料1に示す。

(2) 単元計画

単元計画を資料2に示す。指標児童Aの変容をもとに仮説を検証していきたい。

(3) 授業の実際

i てだて①単元との出合いの工夫と単元を貫く課題の設定

第1・2時で、身近な碧南市の特産物に興味・関心をもつことができるようにするため、「市制70周年観光パンフレット【いろいろ】(資料3)」「碧南市の航空写真(資料4)」を用い、「碧南市はどんな市かを考えよう(第1時)」「碧南市の土地の様子を調べよう(第2時)」という課題を提示した。子どもたちは、「へきなん美人が有名」「川の近くに田んぼや畑が多い」など、碧南市の特産物や土地利用に気づいていった。第2時の終末で、第3時の市政なんでも百科「碧南の農業」(碧南市出前授業)につなげるため、「へきなん美人のほかに、田んぼや畑ではどんな食べ物を作っているのかな」と問いかけた。Aは「へきなんオリジナルのものがたくさんあって」「さいこうなへきなん市に生まれて」と、碧南市のもの・ことに興味をもち、「給食でもおいしいへきなん美人が川の近くで作られている」「ほかにはどんな食べ物が有名なのか」と、碧南市の特産品への興味・関心をもち始めていることがうかがわれる【授業記録

1・2】。第3・4時では、「ほかにはどんな食べ物が有名なのか知りたい」という思いをもとに、「碧南市で作られている有名な食べ物を知らう(第3時)」「へきなん焼きそばが100年フードになったひみつを考えよう(第4時)」という課題を提示し、碧南市の身近な農産物に、新川発祥の白しょうゆが使われていることに対する興味・関心を高めようと考えた。第3時では、農林水産課の北村さん・斎藤さんをお招きし、市政なんでも百科「碧南の農業」(写真1)についてお話しいただいた。講座後、「いちばん心に残ったことは何か」と問いかけ、ワークシート【授業記録3】を記述した。Aは「たまねぎとにんじんがゆうめい」「へきなんびじんをまたたべて」「へきなんのたまねぎもたべて」と、碧南の身近な農産物に、興味・関心が高まっていることがうかがわれる【授業記録3】。第4時では、へきなん美人やたまねぎが使われ、給食でも人気メニューの「へきなん焼きそば」が「文化庁の食文化機運醸成事業の100年フードに認定されたときの認定証」(資料5)を提示し、「100年

【Aの現状と願い】【資料1】

理解力があり、一生懸命取り組む児童である。「学校のまわりには公共施設が思っていたよりも多くてびっくりしました」と記述し、学校のまわりの様子について、自分の生活と追究したことを関連づけ、考えを深める姿が見られた。しかし、周囲の様子を気にして、自分の考えに自信をもつことができない一面も見られる。そこで、追究から得られた自分の意見と仲間の意見をかかわらせることで、他の意見を取り入れながら、自分の考えに自信をもつことができるようになってほしい。

へきなんオリジナルのものがたくさんあって、うれしかった。さいこうなへきなん市に生まれてよかった。(第1時のAの授業記録)【授業記録1】

給食でもおいしいへきなん美人が川の近くで作られていることが分かった。ほかにはどんな食べ物が有名なのか知りたい。(第2時のAの授業記録)【授業記録2】

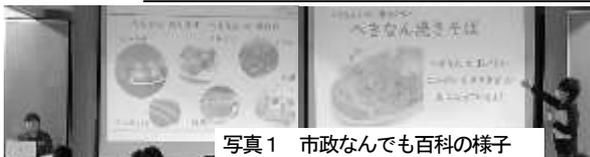
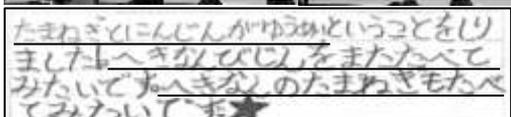


写真1 市政なんでも百科の様子



第3時の講座後のAのワークシートの一部【授業記録3】

白しょうゆとふつうのしょうゆの色がぜんぜんちがって、びっくりした。明石公園に行ったら、じっくり見たい。もっと白しょうゆについて知りたくなった。早く見学に行きたい。(第4時のAの授業記録)【授業記録4】



写真2 明石公園の記念碑

資料5 100年フード認定証

フードに認定されたひみつを考えよう」と発問した。市政なんでも百科で学んだ特産品「(一)へきなん美人・前浜のたまねぎ・碧南のピーマン・キャベツ・川口町のぶたにく」「(二)碧南のやきそばめん」「(三)碧南の白しょうゆ・白だし」の中から1つ選び、ひみつを考えるようにした。子どもたちの意見は、(一) (10人)、(三) (9人) に多く集まった。(一)は「碧南だけのおいしさがあるから」「有名で栄養がたくさんだから」、(三)は「碧南オリジナルのものだから」「おいしく味付けできるから」など、100年フードに認定されたひみつを、碧南の特産品やそのおいしさから考えていった。教師は、白しょうゆが新川発祥であり、おいしさのひみつを学びたいと思うことができるようにするため、「明石公園にある白しょうゆの記念碑」(写真2)を提示し、終末に「七福醸造株式会社の見学」に行くことを伝えた。Aは「白しょうゆとふつうのしょうゆの色がぜん

ぜんちがって、びっくり」「明石公園に行ったら、じっくり見たい」「もっと白しょうゆについて知りたく」「早く見学に行きたい」と、新川発祥の白しょうゆに興味・関心が高まっていることがうかがわれる【授業記録4】。第5・6時では、「もっと白しょうゆについて知りたくなった。早く見学に行きたい」という思いをもとに、新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさの

ひみつを学びたいと強く思うことができるようにするため、「白しょうゆを作っている工場を見学して、ひみつを見つけよう」という課題で、「七福醸造株式会社の見学」を行った。見学前の話し合い活動で見学の視点を「(1)作り方、機械のひみつ」「(2)工場、働く人のひみつ」「(3)味や材料、食べ方のひみつ」にしぼり、気づいたことや工場の方の話などをワークシートにメモするようにした。Aのワークシートを【授業記録5】に示す。(1)は「こむぎ9大豆1」「タンクに2万7千L」、(2)は「白だしがはじめて生まれたところ」、(3)は「こうじきんにありがとうという」などと記述【授業記録5】し、見学や工場の方のお話から、白しょうゆ・白だしのひみつを見つけていった。見学後、「いちばん心に残ったことは何か」と問いかけたところ、Aは「し食」「たまごやきときゅうりがすごくおいしかった」【授業記録6】と答えた。他にも、「試食がおいしかった」「白しょうゆが超おいしかった」「卵焼きや卵スープ、きゅうりの浅漬けがおいしかった」「めんつゆがいちばんおいしかった」など、おいしいという意見が次々としてきた。そこで、「白しょうゆ・白だし探検隊!!新川で初めて作られた白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを見つけよう」という単元を貫く課題を提示して、追究していくことにした。Aは「もっと食べたかった」「白しょうゆや白だしのおいしさのひみつをもっとしりたく」と、新川発祥の白しょうゆ・白だしへの興味関心をさらに高め、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを強く学びたいと感じていることがうかがわれる【授業記録6】。よって、てだて①により、新川発祥の白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを学びたいと強く思うことにつながったと言えるだろう。

ii てだて②課題意識をもち続けることができる単元計画
第6時で「白しょうゆや白だしのおいしさのひみつをもっとしりたく」という思いをもとに、「白しょうゆ・白だし探検隊!!新川で初めて作られた白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを見つけよう」という課題を粘り強く追究していくため、「おいしくする作り方のひみつを考えよう(第7時)」「おいしく作る人のひみつを考えよう(第8時)」という課題を提示し、工場見学のまとめとともに、白しょうゆ・白だ



写真5 試食の様子



写真3 タンクの様子

いちばん心にのこったことは、し食です。なぜなら、たまごやきときゅうりがすごくおいしかったから。もっと食べたかった。白しょうゆや白だしのおいしさのひみつをもっとしりたくなった。(第6時のAの授業記録)【授業記録6】

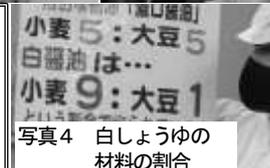


写真4 白しょうゆの材料の割合



第5・6時のAのワークシートの一部【授業記録5】

しの作り方、作る人の工夫や思いに迫ろうと考えた。第7時では、見学で見つけたおいしくする作り方のひみつに迫るため、見学後のワークシートに多く記述されていた事柄をもとに、作り方のひみつを「①天然の材料を使う」「②麹菌だけをしっかりと混ぜる」「③温度・機械の管理をしっかりとる」「④昔ながらの作り方で作る」(資料6)の4つにしぼって提示し、社会的な見方や考え方を働かせるため、「4つの中で大事だと思うものはどれかな」と発問した。子どもたちの意見は、①(6人)・②(6人)③(2人)・④(4人)と分かれた。①は「こだわりの材料をそのまま使う」「もともとおいしい材料を使うから、もっとおいしくなる」「天然の材料だから、おいしさも栄養もある」、②は「他の菌が混ざると白しょうゆじゃなくなる」「麹菌だけを混ぜるから、白しょうゆがおいしくなる」、③は「温度を管理しないと他の菌が入りやすくなる(児童A)」「機械がきれいじゃないとおいしさがへる」、④「作り方を変えるとおいしさがへる」「昔のまま今もおいしい」などであった。教師は、③の意見が出ていなかったため、児童Aを意図的指名し、③のひみつも共有できるようにした。子どもたちは、見学での学びを想起しながら、おいしくする作り方のひみつをとらえていった。教師は、見学で見つけた作り方のひみつをまとめ、次時の作る人の思いや工夫に目を向けることができるようにするため、「①②③④のとき、作る人はどんな思いや工夫をしながら作っていたかな」と発問し、振り返りを記述した。Aは「おんどやきかいをしっかりとんりして、こうじきんだけをいれるとおいしくなる」と、見学で見つけたおいしくする作り方のひみつをとらえ、「作る人の思いやくふうもしっかり考えたい」と、作る人の思いや工夫に目を向けていることがうかがわれる【授業記録7】。第8時では、見学で見つけたおいしく作る人の思いや工夫のひみつに迫るため、見学後のワークシートに多く記述されていた事柄をもとに、作る人の思いや工夫のひみつを「A機械だけに任せず、人の目で確かめる」「Bありがたうの言葉を大切にしている」「C衛生に気を付け、機械をきれいに洗う」(資料7)の3つにしぼって提示し、社会的な見方や考え方を働かせるため、「3つの中で大事だと思うものはどれかな」と発問した。子どもたちの意見は、B(16人)に多く集まった。見学の際に、ありがたうの言葉を聞いて熟成した塩がとてもきれいだったこと(資料7B)もあり、「ありがたうの言葉を聞くと、見た目もおいしさもよくなる」「ばかやろうの言葉を聞いた塩より、見た目もおいしさも全然違う」「ありがたうの言葉を聞いたほうがもっとおいしくなる」など多くの児童が発言した。なかには、「働く人の心もきれいになり、うれしさややさしさも出てくる」という



資料6 4つの作り方のひみつ
白しょうゆを作るときには、おんどやきかいをしっかりとんりして、こうじきんだけをいれるとおいしくなると思っ
た。とてもべん強になった。作る人の思いやくふうもしま
り考えたい。(第7時のAの授業記録)【授業記録7】



資料7 3つの作る人の思いや工夫のひみつ
AもBもCも大切だと思った。もしきかいだけだ
ったら、おいしくて安心な白しょうゆも白だしも作
れなかったから、人の目は大切だと思った。し食は
したけど、出前こうぎでおいしい食べ方を見つけた
い。(第8時のAの授業記録)【授業記録8】

意図的指名し、③のひみつも共有できるようにした。子どもたちは、見学での学びを想起しながら、おいしくする作り方のひみつをとらえていった。教師は、見学で見つけた作り方のひみつをまとめ、次時の作る人の思いや工夫に目を向けることができるようにするため、「①②③④のとき、作る人はどんな思いや工夫をしながら作っていたかな」と発問し、振り返りを記述した。Aは「おんどやきかいをしっかりとんりして、こうじきんだけをいれるとおいしくなる」と、見学で見つけたおいしくする作り方のひみつをとらえ、「作る人の思いやくふうもしっかり考えたい」と、作る人の思いや工夫に目を向けていることがうかがわれる【授業記録7】。第8時では、見学で見つけたおいしく作る人の思いや工夫のひみつに迫るため、見学後のワークシートに多く記述されていた事柄をもとに、作る人の思いや工夫のひみつを「A機械だけに任せず、人の目で確かめる」「Bありがたうの言葉を大切にしている」「C衛生に気を付け、機械をきれいに洗う」(資料7)の3つにしぼって提示し、社会的な見方や考え方を働かせるため、「3つの中で大事だと思うものはどれかな」と発問した。子どもたちの意見は、B(16人)に多く集まった。見学の際に、ありがたうの言葉を聞いて熟成した塩がとてもきれいだったこと(資料7B)もあり、「ありがたうの言葉を聞くと、見た目もおいしさもよくなる」「ばかやろうの言葉を聞いた塩より、見た目もおいしさも全然違う」「ありがたうの言葉を聞いたほうがもっとおいしくなる」など多くの児童が発言した。なかには、「働く人の心もきれいになり、うれしさややさしさも出てくる」という

意見も聞かれた。AはA(4人)の意見だった。Bの意見に押されていたため、意図的指名し、「機械だけでは心配だから、人の目で確かめることでおいしさにつながる(児童A)」と発言した。Cの意見も少数(2人)だったため、意図的指名し、「洗わないと機械が錆びて使えなくなる」「味が悪くなったり、お腹を壊す」という意見を引き出し、A・B・Cのひみつを共有できるようにした。子どもたちは、見学での学びを想起しながら、おいしく作る人の思いや工夫のひみつをとらえていった。教師は、見学で見つけたおいしく作る人の思いや工夫のひみつをまとめ、次時のおいしく味わうひみつに目を向けることができるようにするため、「おいしく味わうひみつは何だろう。白しょうゆ博士とプロの料理人出前講座でおいしく味わうひみつを見つけよう」と発問し、振り返りを記述した。Aは「もしきかいだけだったら、おいしくて安心な白しょうゆも白だしも作れなかったから、人の目は大切」と、見学で見つけたおいしく作る人の思いや工夫のひみつをとらえ、「出前こうぎでおいしい食べ方を見つけない」と、おいしく味わうひみつに目を向けていることがうかがわれる【授業記録8】。第9・10時では、「おいしい食べ方を見つけない」という思いをもとに、白しょうゆ・白だしのおいしい味わい方を見つけるため、「おいしく味わうひみつを見つけよう」という課題で、「白しょうゆ博士とプロの料理人出前講座」を行った。第9時では、七福醸造株式会社の本浦さんから、白しょうゆの香り成分の体験や麹菌の見学、白しょうゆの味見など(写真6)をさせていただいた。第10時では、調味料エバンジェリストの下村さんから、コーンご飯の実演と試食、ナムルときゅうりの浅漬けの体験(写真7)をさせていただいた。Aのワークシートを【授業記録9】に示す。Aは「白しょうゆの香りの成分が300種類もあるのがすごい」「白しょうゆはごま油とまぜただけで、こんなにおいしくなる」と、白しょうゆ・白だしのおいしい味わい方を見つけていることがうかがわれる【授業記録9】。講座後、社会的な見方や考え方を働かせ、次時でおいしい味わい方のひみつに迫るため、「この講座で、いちばん心に残ったことは何か」と問いかね、振り返りを記述した。Aは「白しょうゆは、こむぎと大豆としおでできているのに、香りの成分が300種類もある」「こうじきん

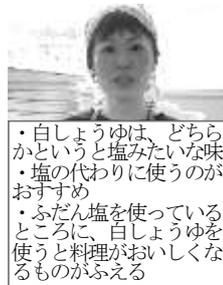


写真6 白しょうゆの味見
白しょうゆは、こむぎと大豆としおででき
ているのに、香りの成分が300種類もあるの
にびっくりした。こうじきんだけをませるの
は大切なんだと思った。コーンがあまくてし
やりつとしておいしいけど、白しょうゆのコー
ンごはんにしたら、コーンがもっとあまく
なっていて、コーンがもっと好きになった。
(第10時のAの授業記録)【授業記録10】

白しょうゆは、こむぎと大豆としおでできているのに、香りの成分が300種類もあるのがすごいと思っ
た。とてもべん強になった。作る人の思いやくふうもしま
り考えたい。(第7時のAの授業記録)【授業記録7】

第9・10時のAのワークシートの一部【授業記録9】

だけをまぜるのは大切」と、味わい方のひみつと作り方のひみつを関連づけて記述し、「白しょうゆのコーンごはんにしたら、コーンがもっとあまくなって」と、白しょうゆ・白だしのおいしい味わい方を見つけていることがうかがわれる【授業記録10】。第11時では、「コーンがもっとすきに」をもとに、「おいしく味わうひみつを考えよう」という課題を提示し、出前講座のまとめとともに、おいしい味わい方のひみつに迫ろうと考えた。講座後のワークシートに多く記述されていた事柄をもとに、味わい方のひみつを「⑦香りが300種類以上でどんな料理にも合う」「④甘みと塩味が強く、食べ物のおいしさを引き出す」「⑨しょうゆより色がうすく、見た目もよくなる」(資料8)の3つにしぼって提示し、社会的な見方や考え方を働かせるため、「3つの中で大事だと思うものはどれかな」と発問した。子どもたちの意見は、⑦(7人)・④(7人)⑨(13人)と分かれた。⑦は「白しょうゆを入れるだけで、わくわくする」「どんな料理も楽しみになる」「においが300種類もあるから、どんな料理にも入れる」、④は「甘みがあって、食べ物をおいしくする(児童A)」「食べ物をもっとおいしくなる」「甘みと塩味なのがよい」、⑨は「見た目もいれから、もっと食べたくなる」「しょうゆの色が目立たない」「おいしそうに見える」など、



資料9 下村さんとインタビューの内容



資料8 3つの味わい方のひみつ

白しょうゆをおいしく味わうには、しおのかわりにつかうとよいということをはじめてした。食べ物がおいしくなるのは、しおみたくない味が分かった。とてもべん強くなった。家でもやってみたい。(第11時のAの授業記録)【授業記録11】

出前講座での学びを想起しながら、おいしい味わい方のひみつをとらえていった。教師は、出前講座で見つけた味わい方のひみつをまとめ、次時からのおいしさのひみつをまとめる活動につなげるために、調味料エバンジェリストの下村さんのインタビュー(資料9)を提示し、「白しょうゆや白だしのおいしさのひみつは何か」と発問し、振り返りを記述した。Aは「白しょうゆをおいしく味わうには、しおのかわりにつかうとよい」「食べ物がおいしくなるのは、しおみたくない味」と、下村さんのインタビューと出前講座で見つけたおいしい味わい方のひみつを関連づけながら、おいしい味わい方のひみつをとらえていることがうかがわれる【授業記録11】。第12・13時では、「家でもやってみよう」という思いの高まりを受け、今まで追究してきた白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつをまとめ、おいしさのいちばんのひみつを考えるため、「おいしさのひみつをまとめよう」という課題を提示し、「I. 作り方」「II. 作る人」「III. 味わい方」について、タブレット端末も用いてまとめ【授業記録12】を行った。Aは、「I」は「麹菌だけをしっかりとまぜる」、「II」は「ありがたい言葉を大切にしている」、「III」は「あまみと塩味が強く、食べ物のおいしさを引き出す」ことを決め手にまとめを作った【授業記録12】。第13時の終末で、社会的な見方や考え方を働かせ、次時でおいしさのいちばんのひみつに迫るため、「今まで勉強してきた作り方・作る人・味わい方のなかで、おいしさのいちばんのひみつは何か」と問いかけ、振り返りを記述した。Aは「どのひみつも大切だと思うけど、いちばんのひみつ」と、今まで追究してきた作り方・作る人・味わい方のひみつを比較、関連づけ、「あまみとしお味が食べ物をおいしくし、あまさとしょっぱさがちょうどいい味になるから、コーンごはんがおいしかった」と、おいしさのいちばんのひみつをとらえていることがうかがわれる【授業記録13】。よって、てだて②により、「作り方のひみつ」「作る人のひみつ」「味わい方のひみつ」で学んだ事実を比較、関連づけたりしながら、粘り強く課題を解決することにつながったと言えるだろう。

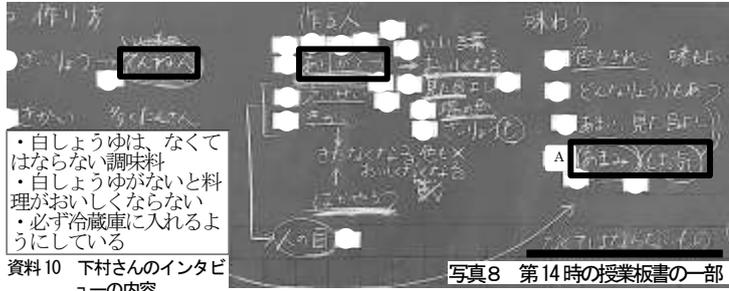


Aの追究のまとめ【授業記録12】

どのひみつも大切だと思うけど、いちばんのひみつは、おいしく味わうひみつだと思う。理由は、あまみとしお味が食べ物をおいしくし、あまさとしょっぱさがちょうどいい味になるから、コーンごはんがおいしかったと思う。(第13時のAの授業記録)【授業記録13】

記録13】。よって、てだて②により、「作り方のひみつ」「作る人のひみつ」「味わい方のひみつ」で学んだ事実を比較、関連づけたりしながら、粘り強く課題を解決することにつながったと言えるだろう。

iii てだて③資料や発問を工夫し、追究活動を通して得た考えを話し合う場の設定



資料10 下村さんのインタビューの内容 写真8 第14時の授業板書の一部

で「I. 作り方」「II. 作る人」「III. 味わい方」のなかから選んだいちばんのひみつを用い、仲間の意見や思いにふれることができるようにするため、「白しょうゆ・白だしのおいしさのいちばんのひみつはどれかな」と発問した。子どもたちの意見は、I(3人)、II(16人)、III(6人)だった。Iは「天然のいいものを使っている」「機械で多く作れる」、IIは「ありがたいの気持ちでおいしくなる」「材料も見た目もよくなる」「機械だけでなく人の目も大切」、IIIは「色もきれいで味もよい」「どんな料理にもあう」「あまみと塩気がちょうどよい(児童A)」など、子どもたちは、粘り強い追究活動で得た学びを生かしながら、考えを交流していった(写真8)。教師は、板書した作り方・作る人・味わい方のキーワード「I. てんねん」「II. ありがとう」「III. あまみ・しお気」(写真8の□の部分)を取り上げ、「天然の材料を使い、ありがたいの気持ちのこもった、あまみと塩気が特徴の白しょうゆや白だしは、みんなに

単元を貫く課題を粘り強く追究するなかで得た考え「どのひみつも大切だと思うけど…(中略)…コーンごはんがおいしかった」をもとに、第14時では、仲間の意見や思いにふれて考えを深めるなかで社会参画の意識を高めるため、「白しょうゆ・白だしのおいしさの『いちばんのひみつ』を考えよう」という課題で話し合う場を設定し、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを再評価することを通して社会参画の意識を高めようと考えた。前時の振り返り

とってどんなものかな」と発問し、調味料エバンジェリストの下村さんのインタビュー（資料10）を提示し、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを再評価できる

ようにした。子どもたちは、「うちの冷蔵庫にもあって、なくてはならないもの」「うちもからあげに使っていて、なくてはならないものだよ」（写真8のの部分）「アオキスーパーで買ってるよ」など、仲間の意見や思いにふれることで、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを再評価し、生活と深くかかわっていることに気づいていった。社会参画の意識を高めるため、「3年1組で白しょうゆ・白だしが家にある割合（事前に保護者にアンケートを依頼）」（資料11）と「白しょうゆの全国での生産量の割合」（資料12）を提示し、「3年1組では、75%の家にあり、なくてはならない白しょうゆが、全国では0.7%しか作られていないんだって。どう思う」と発問した。

「そんなに少ないなんて」「おいしいのに、何で少ないの」「白しょうゆのおいしさを知らないなんて、かわいそう」「白しょうゆのおいしさを伝えたい」「おいしさのひみつを伝えたい」「ナムルやコーンご飯を作って、おいしさを伝えたい」（児童A）」と、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいという思いを高めていった（資料13）。Aは「ここでは、なくてはならないもの」「全国では0.7%しかなくてびっくり」「さみしい」と、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを再評価し、「いろいろな人とどけたいし、伝えたい」と、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めたいという社会参画の意識を高めていることがうかがわれる【授業記録14】。よって、てだて③により、仲間の意見や思いにふれて考えを深めるなかで社会参画の意識を高めることにつながったと言えるだろう。

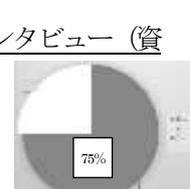
iv てだて④社会参画の意識を具現化するための工夫

第15時では、「いろいろな人とどけたいし、伝えたい」という高まった社会参画の意識をもとに、「白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを広めよう」という課題を提示し、白しょうゆ・白だしのおいしさのひみつを伝えるために動き出そうと考えた。「だれに、どんな方法で、いちばん伝えたいひみつは何か」と発問し、社会参画するための方法をグループで模索することにした。Aのグループは「日本人全員」に、「ポスターをいろいろな場所に」はり、「白しょうゆがしおのかわりにつかえたり、おいしいところやあじもいしい、みためもいり」ところ（資料14）とまとめた。教師は、各グループの話し合いの内容を「碧南以外の家族に白しょうゆの料理を作る」「学校の人にタブレットで伝える」「日本全国の人にSNSで伝える」の3つにまとめ、高まった社会参画の意識を具現化するため、「今すぐにできそうなことは何か」と問いかけた。「タブレットでポスターを作れば、学校の人にも、全国の人にも、家族にも、碧南以外の家族にも伝える」「SNSにもアップできる」という意見が多くを占め、ポスターでおいしさのひみつを伝えたいという思いが高まっていった。Aは「まだまだ白しょうゆのおいしさを知らない人がたくさん」「ポスターを作って、白しょうゆがしおのかわりにつかうといいことを伝えたい」と、白しょうゆのおいしさを知らない人に、ポスターでおいしさのひみつを伝えたいと動き出そうとしていることがうかがわれる【授業記録15】。よって、てだて④により、高まった社会参画の意識をもとに、白しょうゆ・白だしのおいしさを広めたいと動きだそうとすることにつながったと言えるだろう。

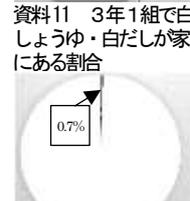
4 研究の成果と今後の課題

第16時では、「早くタブレットで作りたい」という思いをもとに、「おいしさのひみつをタブレットにまとめて、広めよう」と発問し、タブレット端末を用いて、ポスターを制作し、家族に伝える活動を行った。Aの制作したポスターを資料15に示す。Aは、追究してきた3つのひみつから、【授業記録13】にもあるように、Ⅲの味わい方のひみつを選び、「どんなりょうりにでもあう白しょうゆ」というキャッチフレーズをつけた（資料15）。「塩のかわりに使うといい」「見た目もよくなるし、味もよくなる」と、第11時で学んだことを生かして、ひみつを記述している（資料15）。「コーンごはんを作ったらコーンの甘みがでてすごくおいしかった」と、第9・10時の出前講座での体験を生かして、呼びかけを行っている（資料15）。これは、Aが、社会的事象を自分事としてとらえ、単元を通して課題意識をもち続けた姿といえてよいだろう。この姿は、「白しょうゆのべん強、楽しかった」【授業記録15】、「白しょうゆをつかったりょうりをたくさんつくってみたい」「お母さんと白しょうゆをかけて、コーンごはんを作ってみたら、すごくおいしかった」「これからも白しょうゆをつかっていきたい」【授業記録16】にも現れていると考えてよいだろう。このAの姿と3(3) i・iiの記述から、てだて①②は有効であったと考える。よって、仮説1は立証されたと言える。また、「周囲の様子を気にして、自分の考えに自信をもつことができない一面」【資料1】があるAが、「ナムルやコーンご飯を作って、おいしさを伝えたい」（資料13）と、仲間の意見や思いにふれることで考えに自信をもつことができた。その自信が、ポスターの制作（資料15）や【授業記録16】の記述につながったと考えられる。このAの変容と3(3) iii・ivの記述から、てだて③④は有効であったと考える。よって、仮説2は立証されたと言える。以上により、本研究のめざす子ども像に迫れたと考える。

社会科を学び始めたばかりの子どもたちでも、社会的な事象をより自分事としてとらえ、課題意識をもち続けられるように単元を構成すれば、社会参画の意識がより高められることがわかった。どの単元でも、より自分事として社会的な事象をとらえられるよう、地道な教材研究と教材の出合わせ方を研究していきたい。



資料11 3年1組で白しょうゆ・白だしが家にある割合

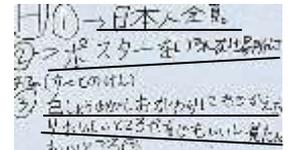


資料12 白しょうゆの全国での生産量の割合

(資料11・12を提示した後)
T 3年1組では、75%の家にあり、なくてはならない白しょうゆが、全国では0.7%しか作られていないんだって。どう思う
C30 そんなに少ないなんて、びっくりした。
C (口々に) ぼくも、わたしも。
C31 おいしいのに、何で少ないのかわかぬと思う。
C32 白しょうゆのおいしさを知らないなんて、かわいそうだと思います。(中略)
T どうしたい。
C33 白しょうゆのおいしさを伝えたい。
C32 おいしさのひみつを伝えたい児童A「ナムルやコーンご飯を作って、おいしさを伝えたい。」

資料13 7月8日授業記録の一部

ここでは、なくてはならないものなのに、全国では0.7%しかなくてびっくりしたし、さみしい。白しょうゆは、おいしくて、なくてはならないものだから、いろいろな人とどけたいし、伝えたい。(第14時のAの授業記録)【授業記録14】



資料14 Aのグループの話し合い

まだまだ白しょうゆのおいしさを知らない人がたくさんいるので、ポスターを作って、白しょうゆがしおのかわりにつかうといいことを伝えたい。ほやくタブレットで作りたい。白しょうゆのべん強、楽しかった。(第15時のAの授業記録)【授業記録15】



資料15 Aの制作したポスター

白しょうゆがいろいろなりょうりにつかえることがしらなかつたので、白しょうゆをつかったりょうりをたくさんつくってみたい。白しょうゆのことを知らない人がたくさんいて、びっくりしたし、新1町で生まれたものしらなかつたし、白しょうゆから白だしが生まれたものしらなかつたから、びっくりした。お母さんと白しょうゆをかけて、コーンごはんを作ってみたら、すごくおいしかった。これからも白しょうゆをつかっていきたい。(第16時のAの授業記録)【授業記録16】